

編集委員会から

掲載料

私ですらよく思い出せなくなっているのですが、多くの読者は、海外学術雑誌は掲載料が必要だったことを知らないと思います。現在、ほとんどの海外学術雑誌は掲載料をとりませんが、電子ジャーナルがなく冊子体のみの時代は高額な掲載料が必要でした。10万円近いこともあったように記憶しています。また、別刷りも購入することが多かったと思います。

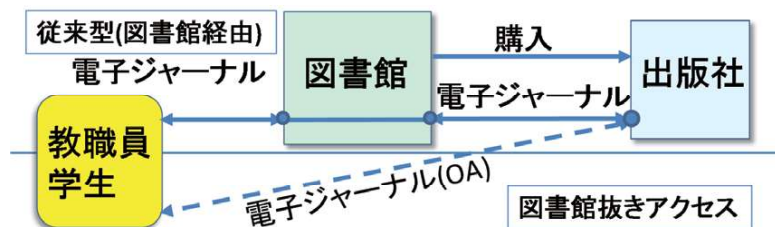
大学図書館が購読料を支払い、著者は掲載料を負担するという仕組みでした。また購読料も年間数10万円はふつうでした。現在でも同じですが、大手出版社および学会はパッケージで販売する戦略に転換したため学術雑誌単位の購読料を考えることはほとんどなくなっています。

現在、電子ジャーナルでオープンアクセス（OA）として論文を公開したいときは学術雑誌に別途費用を支払います。この費用はAPC（Article Processing Charge）と呼ばれており（すなわち掲載料ではなく論文処理費用）、平均2000-3000ドル（20-30万円）程度です。

仮にすべての学術論文がOAとなれば雑誌を購入する必要がなくなりますが、例えば私の大学の現在の電子ジャーナル購入費用（1億数千万円）をすべて大学教員の論文のAPCに充当しても不足しますので、現実的には不可能です。ただし、ドイツ、フランス、イギリスなどを例に、これが成立するという試算もあります（すなわち、その国で支払っている購読料の総合計のほうがAPC×論文数より高くなる）。

日本食品工学会誌は世界で最安のOAジャーナルではないかと考えています。頁単価で会員ならば3000-4000円、非会員でも4000-5000円です。20万～30万円のAPCを支払える東南アジア圏の研究者は少ないと思います。このような価格が設定できるのは、会員のみなさまのご理解と、事務所および編集委員のご協力によるものです。

読者と出版社の関係：従来型とOA



(山口大学 山本修一)